



平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年11月2日

上場会社名 (株)東京放送ホールディングス
コード番号 9401 URL <http://www.tbsholdings.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 武田 信二

問合せ先責任者 (役職名) 経理局経理部長 (氏名) 津久井 直也 TEL 03-3746-1111

四半期報告書提出予定日 平成29年11月10日 配当支払開始予定日 平成29年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	177,528	2.9	10,119	37.9	14,813	34.8	9,291	35.8
29年3月期第2四半期	172,508	1.6	7,338	25.1	10,990	29.7	6,840	41.5

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 60,802百万円 (288.1%) 29年3月期第2四半期 15,664百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	53.21	
29年3月期第2四半期	39.20	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	780,330	575,434	71.7
29年3月期	707,063	517,430	71.1

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 559,749百万円 29年3月期 502,444百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		11.00		17.00	28.00
30年3月期		15.00			
30年3月期(予想)				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	361,000	1.6	22,000	10.7	29,500	12.6	18,600	15.3	106.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	190,434,968 株	29年3月期	190,434,968 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	15,762,502 株	29年3月期	15,871,409 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	174,637,063 株	29年3月期2Q	174,492,788 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
3. 補足情報	11
㈱TBSテレビ第2四半期事業収入の内訳	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

わが国の経済は、企業収益・雇用環境の改善などを背景に緩やかな回復基調が続いております。一方、欧米の政策動向に伴う影響やアジアにおける地政学的リスクの高まりなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境下、当社グループの当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高1,775億2千8百万円（前年同期比2.9%増）、営業利益101億1千9百万円（同37.9%増）、経常利益148億1千3百万円（同34.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は92億9千1百万円（同35.8%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

◇放送事業セグメント

放送事業セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は1,071億1千8百万円（前年同期比0.9%増）、営業利益は21億2千万円（同113.3%増）となりました。

放送事業の主力である株式会社TBSテレビは、当第2四半期連結累計期間のタイム収入が430億1千2百万円（前年同期比2.3%増）、スポット収入が410億8千万円（同0.4%増）となりました。タイムセールスでは、レギュラーベースの伸長に加え、8月の「世界陸上ロンドン大会」の売上が好調で、昨年同時期の「リオデジャネイロオリンピック2016」などの売上が大幅に上回り、増収となりました。スポットセールスでは、関東地区投下量が前年同期比1.5%減と前年を割り込む中、好調な視聴率を背景に、在京5局中唯一前年を上回りました。

株式会社BS-TBSは、当第2四半期連結累計期間で売上高82億6千1百万円（前年同期比0.6%減）、営業利益は10億9千4百万円（同14.6%増）となりました。放送収入では、タイムレギュラーセールスの不調が続く中、タイム単発、スポット、ショッピングが前年を上回り増収となりましたが、事業収入の減収分をカバーしきれず、若干の減収となりました。利益面では、コストコントロールに努め増益を確保しました。

株式会社TBSラジオは、8月のビデオリサーチ首都圏聴取率調査においてもトップを記録し、2001年8月調査以来、16年2ヶ月・97期連続で首都圏ラジオ首位の座を守り続けております。ラジオ全体のSIU低下やスポット地区投下量の減少など、ラジオを取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、radikoやラジオクラウドなどデジタル展開でのタッチポイントを増やしつつ、引き続きコストコントロールを徹底し、聴取者の期待に応えてまいります。

◇映像・文化事業セグメント

映像・文化事業セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は624億3千5百万円（前年同期比6.2%増）、営業利益35億9千3百万円（同57.1%増）となりました。

興行では、東京豊洲にオープンしたアジア初の360度回転劇場「IHIステージアラウンド東京」にて「劇団☆新感線『髑髏城の七人』」を公演しておりますが、第1弾『シーズン花』の成功に続き、第2弾となる『シーズン鳥』の上演においても、チケットが連日完売となる大盛況となりました。TBS赤坂ACTシアターでは、6月公演の「俺節」に続き、世界的なヒットミュージカル「ピリー・エリオット」を上演し、好評を博しました。映画事業では、7月公開の映画「忍びの国」（出演：大野智ほか、監督：中村義洋）が興行収入24億円を超える大ヒットとなりました。

メディアビジネス関連では、海外事業において、東南アジア各国へのドラマセールスが好調で、「SASUKE」のフォーマット販売も放送国の増加を背景に堅調に推移し、売上を伸ばしました。ライセンス事業においては、TVショッピングが好調でヒット商品を中心に売上を伸ばしました。CS事業においては、オリジナルコンテンツの拡充など視聴者増加に向けた施策を行いましたが、プラットフォーム加入者の減少に伴い減収となりました。

スタイリングライフグループは、増収増益となりました。中核の小売事業「ブラザスタイルカンパニー」は、収入面では化粧品・雑貨が好調に推移する中、衣料品もマイナス幅が減少するなどして増収となり、利益面も原価率改善により増益となりました。化粧品事業はヒット商品の国内外の売上拡大により好調を維持しました。

◇不動産事業セグメント

不動産事業セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は79億7千4百万円（前年同期比5.6%増）、営業利益44億6百万円（同8.5%増）となりました。

赤坂Bizタワーは、オフィス、商業施設とも高い稼働を維持しており、堅調に推移しております。

赤坂サカスについては、今後もTBSグループや番組をより身近に感じていただくための様々な催事を行い、放送文化の発信地としての地位を不動のものとするを旨としてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は7,803億3千万円で、前連結会計年度末に比べて732億6千7百万円の増加となりました。受取手形及び売掛金が34億7千8百万円減少、有形固定資産、無形固定資産が減価償却等により35億5百万円減少した一方、保有する株式の含み益の増加等により投資有価証券が769億1千6百万円増加したこと等によります。

(負債)

負債合計は2,048億9千6百万円で、前連結会計年度末に比べて152億6千3百万円の増加となりました。支払手形及び買掛金が18億7千7百万円減少、未払金が20億6千7百万円減少した一方、保有する株式の時価の上昇に伴い繰延税金負債が221億9千7百万円増加したこと等によります。

(純資産)

純資産合計は5,754億3千4百万円で、前連結会計年度末に比べて580億3百万円の増加となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益の計上や配当金の支払い等により利益剰余金が差し引き63億2千3百万円増加、その他有価証券評価差額金が509億6百万円増加したこと等によります。

この結果、自己資本比率は71.7%、1株当たりの純資産は3,204円57銭となっております。

(連結キャッシュ・フロー計算書に関する定性的情報)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は703億6千8百万円で、前連結会計年度末に比べて29億7千7百万円増加しました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、155億3千万円の収入になりました（前年同期は165億5千5百万円の収入）。主な増額要因は、税金等調整前四半期純利益148億6千8百万円、減価償却費71億4千3百万円、売上債権の減少額34億7千8百万円等、一方、主な減額要因は、たな卸資産の増加額12億4千4百万円、仕入債務の減少額18億7千7百万円、法人税等の支払額55億8千8百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、82億5千1百万円の支出となりました（前年同期は72億9千8百万円の支出）。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出54億2千6百万円、関係会社株式の取得による支出28億7千1百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、43億5百万円の支出となりました（前年同期は348億9千9百万円の支出）。主な内訳は、長期借入れによる収入48億円、長期借入金の返済による支出54億円、配当金の支払額29億6千7百万円等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、当社グループの主力でありますTBSテレビのタイム収入等が堅調に推移したほか、興行や海外事業、映像・文化事業セグメントの連結子会社の業績が好調でした。また、コストコントロールの継続等もあり、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益とも、前回予想を上回りました。

通期の業績につきましては、主に、映像・文化事業セグメントの子会社におきまして、次期以降の収益拡大を目指した追加販促費用の支出等という要因はありますが、売上高、営業利益以下の各利益とも、上記第2四半期連結累計期間の上方修正を反映する形で、前回予想を上回る見通しです。

こうした状況を勘案し、平成29年5月11日の業績予想を下記の通り修正し、平成29年11月1日に公表いたしました。

なお、配当予想につきましては、今後の業績の推移等を見極めた上で改めて検討することとし、現時点におきましては、平成29年5月11日に公表した通りの配当予想とさせていただきます。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成29年5月11日発表(A)	百万円 357,000	百万円 20,000	百万円 27,300	百万円 17,000	円 銭 97 39
平成29年11月1日発表(B)	361,000	22,000	29,500	18,600	106 50
増減額(B-A)	4,000	2,000	2,200	1,600	—
増減率	1.1%	10.0%	8.1%	9.4%	—
前期実績	355,363	19,878	26,207	16,136	92 46

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	69,731	71,699
受取手形及び売掛金	42,460	38,981
有価証券	449	449
商品及び製品	7,472	7,504
番組及び仕掛品	6,378	7,567
原材料及び貯蔵品	520	544
前払費用	10,206	9,878
繰延税金資産	3,326	3,315
その他	5,086	5,386
貸倒引当金	△153	△151
流動資産合計	145,479	145,177
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	200,685	201,043
減価償却累計額	△106,060	△108,652
建物及び構築物 (純額)	94,624	92,390
機械装置及び運搬具	90,149	89,580
減価償却累計額	△79,502	△80,243
機械装置及び運搬具 (純額)	10,647	9,337
工具、器具及び備品	30,972	31,668
減価償却累計額	△28,357	△29,150
工具、器具及び備品 (純額)	2,615	2,517
土地	84,003	84,003
リース資産	4,348	4,377
減価償却累計額	△2,233	△2,445
リース資産 (純額)	2,115	1,931
建設仮勘定	3,786	5,526
有形固定資産合計	197,792	195,707
無形固定資産		
ソフトウェア	3,929	3,439
のれん	18,595	17,697
リース資産	68	51
その他	1,253	1,238
無形固定資産合計	23,846	22,426
投資その他の資産		
投資有価証券	326,689	403,605
長期貸付金	216	211
繰延税金資産	1,161	1,153
長期前払費用	241	174
その他	11,839	12,071
貸倒引当金	△203	△196
投資その他の資産合計	339,944	417,019
固定資産合計	561,583	635,153
資産合計	707,063	780,330

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	36,130	34,253
短期借入金	769	-
1年内返済予定の長期借入金	5,400	1,200
未払金	12,077	10,010
未払法人税等	6,083	5,143
未払消費税等	1,513	1,623
未払費用	1,620	1,771
賞与引当金	4,684	4,826
役員賞与引当金	107	48
固定資産撤去費用引当金	432	432
その他の引当金	287	324
その他	8,122	7,228
流動負債合計	77,231	66,862
固定負債		
長期借入金	17,000	20,600
環境対策引当金	121	121
退職給付に係る負債	16,206	16,227
リース債務	1,001	847
繰延税金負債	63,201	85,398
その他	14,871	14,838
固定負債合計	112,402	138,034
負債合計	189,633	204,896
純資産の部		
株主資本		
資本金	54,986	54,986
資本剰余金	50,489	50,542
利益剰余金	267,127	273,450
自己株式	△20,543	△20,414
株主資本合計	352,059	358,565
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	150,247	201,154
繰延ヘッジ損益	174	91
為替換算調整勘定	5	9
退職給付に係る調整累計額	△42	△71
その他の包括利益累計額合計	150,385	201,183
非支配株主持分	14,985	15,684
純資産合計	517,430	575,434
負債純資産合計	707,063	780,330

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	172,508	177,528
売上原価	119,352	121,499
売上総利益	53,156	56,028
販売費及び一般管理費	45,817	45,909
営業利益	7,338	10,119
営業外収益		
受取利息	9	9
受取配当金	2,859	4,165
持分法による投資利益	582	607
その他	640	274
営業外収益合計	4,092	5,057
営業外費用		
支払利息	269	197
固定資産除却損	23	62
その他	147	102
営業外費用合計	440	363
経常利益	10,990	14,813
特別利益		
投資有価証券売却益	24	70
特別利益合計	24	70
特別損失		
減損損失	21	15
投資有価証券評価損	129	-
特別損失合計	151	15
税金等調整前四半期純利益	10,863	14,868
法人税、住民税及び事業税	3,033	5,001
法人税等調整額	666	△133
法人税等合計	3,700	4,868
四半期純利益	7,162	10,000
非支配株主に帰属する四半期純利益	322	708
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,840	9,291

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	7,162	10,000
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,847	50,889
繰延ヘッジ損益	△198	△86
為替換算調整勘定	△76	3
退職給付に係る調整額	△16	△23
持分法適用会社に対する持分相当額	△54	19
その他の包括利益合計	8,501	50,802
四半期包括利益	15,664	60,802
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,334	60,090
非支配株主に係る四半期包括利益	330	712

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	10,863	14,868
減価償却費	6,790	7,143
長期前払費用償却額	64	41
減損損失	21	15
のれん償却額	898	898
投資有価証券評価損益 (△は益)	129	-
賞与引当金の増減額 (△は減少)	3,635	141
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	59	△11
固定資産除却損	23	62
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△15	△9
受取利息及び受取配当金	△2,869	△4,174
支払利息	269	197
持分法による投資損益 (△は益)	△582	△607
投資有価証券売却損益 (△は益)	△24	△70
売上債権の増減額 (△は増加)	3,369	3,478
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,155	△1,244
前払費用の増減額 (△は増加)	1,772	365
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,559	△1,877
その他	△6,196	△3,684
小計	15,495	15,534
利息及び配当金の受取額	3,163	4,510
利息の支払額	△381	△197
法人税等の還付額	2,531	1,271
法人税等の支払額	△4,254	△5,588
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,555	15,530
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,885	△5,426
無形固定資産の取得による支出	△700	△379
投資有価証券の取得による支出	△189	△500
投資有価証券の売却による収入	5	1
関係会社株式の取得による支出	△267	△2,871
その他	739	925
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,298	△8,251
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	-	△769
長期借入れによる収入	-	4,800
長期借入金の返済による支出	△600	△5,400
社債の償還による支出	△30,000	-
自己株式の処分による収入	226	397
配当金の支払額	△2,791	△2,967
非支配株主への配当金の支払額	△173	△135
非支配株主への払戻による支出	△1,350	-
その他	△211	△230
財務活動によるキャッシュ・フロー	△34,899	△4,305
現金及び現金同等物に係る換算差額	△76	3
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△25,719	2,977
現金及び現金同等物の期首残高	74,734	67,391
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,971	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	51,986	70,368

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額 (注2)
	放送	映像・文化	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	106,148	58,808	7,552	172,508	—	172,508
セグメント間の内部売上高 又は振替高	921	1,418	2,736	5,076	△5,076	—
計	107,069	60,226	10,288	177,584	△5,076	172,508
セグメント利益	994	2,287	4,061	7,342	△4	7,338

(注) 1. セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額 (注2)
	放送	映像・文化	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	107,118	62,435	7,974	177,528	—	177,528
セグメント間の内部売上高 又は振替高	942	1,550	2,684	5,177	△5,177	—
計	108,060	63,986	10,659	182,706	△5,177	177,528
セグメント利益	2,120	3,593	4,406	10,120	△1	10,119

(注) 1. セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 補足情報

㈱TBSテレビ事業収入の内訳 (第2四半期)

(単位：百万円)

区分	前第2四半期 (28.4.1~28.9.30)	当第2四半期 (29.4.1~29.9.30)	比較		前事業年度 (28.4.1~29.3.31)
	金額	金額	金額	伸率	金額
テレビ	89,477	91,118	1,640	1.8%	184,654
タイム・番組制作	42,061	43,012	950	2.3%	85,388
スポット	40,910	41,080	170	0.4%	86,240
その他	6,506	7,025	519	8.0%	13,024
事業	13,937	14,868	931	6.7%	28,997
不動産	1,490	1,550	59	4.0%	3,065
合計	104,904	107,537	2,632	2.5%	216,717